

# 歩んだ道 輝く

## 春の叙勲 県内受章者

春の叙勲で、地方行政や業界の発展に力を尽くし、顕著な功績が認められた県関係の受章者たち。旭日双光章に輝いた元全日本瓦工事業連盟副理事長の足立英明さん(77)＝土岐市＝、県法人会連合会副会長の中村源次郎さん(72)＝岐阜市＝、元県教育委員会委員長の稲本正さん(79)＝東京都＝の3人が、これまでの活動を振り返り、受章の喜びを語った。

「受章を機会により教育に力を入れたい」と語る  
稲本正さん＝東京都内



旭日双光章  
〈地方教育行政功労〉

元県教育委員会委員長  
稲本 正さん(79)

「日本の教育を変えなければという思いがある。受章を機会に、より教育に力を入れたい」と強い意欲を見せる。

2007～23年に県教育委員、10～12年に県教育委員長を務めた。力を入れたのは、ふるさと教育とICT

「ふるさと教育は自然や文化と接することで五感を豊かにし、岐阜の地を誇りに思うこと、ICTは生徒が世界につながることを目指した。この二つはつながっている。海外に向かうには、自分の足元を固めることが必要だから」と力を込める。

オークヴィレッジ(高山市)の創設者として知られる。現在は東京農大客員教授、執筆活動のほか東京都内などで里山再生の活動をしている。東京都杉並区。

「納税が安心安全、豊かな社会づくりにつながる」と説く  
中村源次郎さん＝岐阜市加納富士町、秋田屋本店本社



旭日双光章  
〈納税功労〉

県法人会連合会副会長  
中村 源次郎さん(72)

25歳の時に、岐阜南法人会活動に参画。青年部会長や副会長などを歴任し、2015年から同会会長と県法人会の副会長を務める。「国の財政健全化は喫緊の課題。税を納めることで、

岐阜南法人会では、税務署と納税者の間に立ち、良好な関係性の構築に尽力。3市2町と広域な管内を束ね、公平な組織運営に努める。租税教室など啓発活動も積極的に行った。

近年は、会員企業数の維持に苦心。管内の支部を再編成し、支部長を理事とすることで、会の結束の強化と増強を図る。

養蜂業の老舗・秋田屋本店の9代目で「仕事は世のため、人のためにする」という父の教えを信条に企業経営を行う。博士(医学)の学位を持ち、ミツバチの生産物の活用法を探る。「長年の活動が認められ光栄」。岐阜市正法寺町。

「瓦屋根は日本らしい美。大切に守っていききたい」と語る  
足立英明さん＝土岐市下石町、足立瓦店



旭日双光章  
〈専門工事業振興功労〉

元全日本瓦工事業連盟副理事長  
足立 英明さん(77)

「実務が評価され、ありがた」と受章を喜ぶ。瓦工職人である足立さんは、組合の組合長を10年間務めた後、2014～22年に全国連盟の副理事長を担った。連盟では瓦屋根標準設計・施工ガイドラインに定める地震や台風強い工法を

普及するため、指導者を養成。約40カ所で開催された。瓦が飛んだ屋根半島台風を受け、ガイドラインを法制化する国土交通省の告示作りに参加。日本建築学会の標準仕様書の瓦工の解説も執筆し、職人の技能向上に貢献してきた。

高卒後に家業の瓦工の道へ。妥協せず丁寧な仕事を心がけ、施主らに納得してもらえよう「一生懸命勉強し、知識を身に付けてきた」と振り返る。旧川上貞奴邸(名古屋市中村区)や村国座(各務原市)も手がけた。「施工品質の悪い屋根をなくしたい。丈夫で長持ちする瓦の良さを伝えていきたい」。土岐市泉中窯町。

## 災害に強い工法普及

高卒後に家業の瓦工の道へ。妥協せず丁寧な仕事を心がけ、施主らに納得してもらえよう「一生懸命勉強し、知識を身に付けてきた」と振り返る。旧川上貞奴邸(名古屋市中村区)や村国座(各務原市)も手がけた。「施工品質の悪い屋根をなくしたい。丈夫で長持ちする瓦の良さを伝えていきたい」。土岐市泉中窯町。